



瀬戸内海巡回診療船

済生丸

瀬戸内海島嶼部の 医療に恵まれない人々が安心して暮らせるよう 医療奉仕につとめます



【済生丸100の構造及び性能】

全長)33.00m 型幅)7.00m 型深)3.30m 満載喫水)2.00m 総トン数)180トン 造水装置)3t/日×1基、航海速力)12.3ノット 航海区域)沿海 定員)船員5名・診療班24名・臨時乗員21名(その都度申請)

基本方針

1. 島の特性を考慮した予防医学を重視し、島民が「自分の体は自分で守る」ことを支援します
2. 海をわたる病院として、近隣の医療機関と協力し、最善の治療が受けられるよう速やかな対応を行います
3. 関係の行政機関と連携し、島民の医療環境の改善を図ります
4. 住民との対話を尊重し、瀬戸内海島嶼部医療のあるべき姿を考えます
5. 瀬戸内海に限らず国内で災害が発生したときは、災害援助診療船として、可能な限りの物的、人的緊急支援をします
6. 医療関係者が予防医学やへき地医療のあり方を学ぶ地域医療研修の場としての役割を担います

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は、昭和36年5月、済生会創立50周年記念事業として当時の岡山済生会総合病院の大和院長によって発案され、昭和37年12月に運航を開始しました。中規模病院並みの診療機能を持つ「済生丸」は、岡山、広島、香川、愛媛県の瀬戸内海に浮かぶ60あまりの島々を巡回して診療・検診にあたっています。

島に暮らす人々が「自分の体は自分で守る」という予防医学を、検診の普及という形で実践し、今日に至っています。

また、島民の健康を守るとともに、検診や健康教室などを通じて交流の場ともなっており、と人の繋がりが済生丸事業を続ける原動力になっているともいえます。

○済生丸による瀬戸内海巡回診療事業実績
令和3年度及び(昭和37～令和3年度)60年間累計

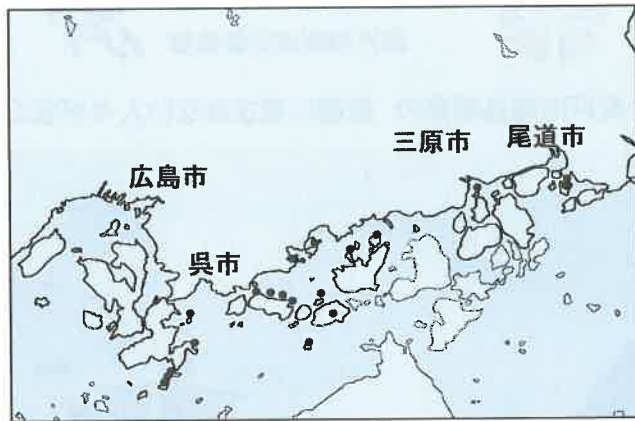
	診療島嶼人口	実施内容			
		航走距離	診療島嶼数	診療島嶼延数	受診延人員
令和3年度	人 15,696	km 13,417.80	島 59	島 165	人 4,346
60年間累計	2,104,548	893,066.46	3,747	12,930	618,809

○ 済生丸の主な寄港地と診療(検診)地域

【岡山県】10島(13か所)



【広島県】12島1地区(19か所)



【香川県】18島(25か所)



【愛媛県】20島(23か所)



診察風景(岡山)



胃透視検査

○ 診療(検診)内容

薬治、レントゲン(胸部、胃部)、血圧測定、心電図、血圧脈波、検尿、潜血、血液(検血、血糖、コレステロール、肝機能検査、クレアチニン、トリグリセリド、HbA1c、HCV、HBs)、眼底検査、腹部超音波検査、頸部血管超音波検査、細胞診(婦人科、肺)、肺年齢検査、肺がん検査、結核、前立腺がん検査、乳がん検査、骨密度検査、心臓超音波検査、健康教室、医療健康教室、医療相談、保健指導

[診療担当及び関係機関]

岡山県/岡山済生会総合病院
広島県/済生会広島病院
済生会呉病院
香川県/香川県済生会病院

愛媛県/済生会松山病院
済生会今治病院
済生会西条病院
事務所/瀬戸内海巡回診療事業推進事務所
瀬戸内海巡回診療船舶管理事務所



済生丸ホームページ

<https://www.okayamasaiseikai.or.jp/saiseimaru/cal/>

◎ 寄付のお願い(詳細は、右上のQRコードよりホームページにお進みご覧ください。)

この事業は、社会貢献活動であり、国や関係四県から運営に係る補助金をいただき、日頃から経費削減に努めながら事業を行っておりますが、運航経費の増加等、年々済生会の負担は大きくなっております。また、島の人口減少などによる受診者数減等の課題も山積しています。この事業を存続していくため、個人や法人様などからのご寄付を受け付けております。さらなるご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。

令和4年7月8日作成